

(英語版)

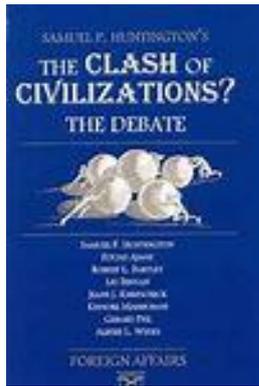
(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百四十二)

第五章：二つのこよみ(西暦とヒジュラ暦) (二十八)

百四十二 二つの予言：「歴史の終わり」と「文明の衝突」 (二―五)



フクヤマは、二十一世紀の世界は民主主義と市場経済が定着したグローバル社会となり、もはやイデオロギーなどの大きな歴史的对立がなくなる「歴史の終わり」の時代になるとうと予言している。一方、ハンチントンは二十一世紀の世界は地球規模の一体化という方向ではなく、むしろ数多くの文明の単位に分裂してゆき、相互に対立・衝突する流れが新しい世界秩序の基調になる、というものである。

ハンチントンは現代の主要文明として西欧文明、イスラム文明、中華文明、ヒンズー文明のほか東方正教会文明、ラテンアメリカ文明及び日本文明の七つを挙げている。通常民俗学、地政学的には極東アジアの範疇に入る日本をハンチントンは独立した文明と捉えていることは興味深い。これら七つの文明の中で西欧文明が最も新しく十八世紀の産業革命から始まったものであり、自由主義、資本主義といったイデオロギー(智)を中核としている。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakarazuyal@gmail.com](mailto:Arehakarazuyal@gmail.com)